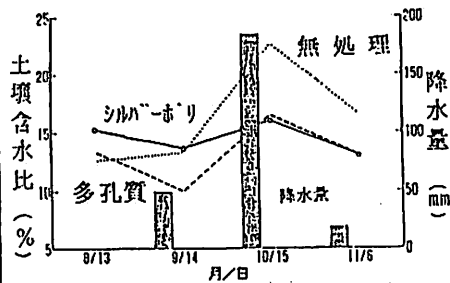
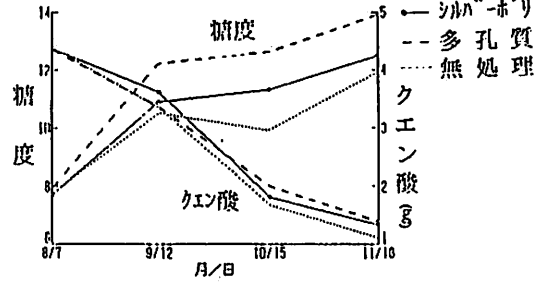


課題名	7 常緑果樹の品質向上	分類	①																																
	(2) 温州ミカンの果実品質向上のためのマルチ資材の種類と処理時期																																		
試験研究年次	1~2年 (完了)																																		
<p>I 目的</p> <p>早生温州におけるマルチ資材の種類並びに処理時期が果実品質に及ぼす影響を検討し、高品質果実生産技術確立に資する。</p>																																			
<p>II 試験方法</p> <p>1 マルチの資材</p> <p>(1) 供試品種 興津早生 カラタチ台12年生 1区 3樹 2反復</p> <p>(2) 処理区</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区</th> <th>資材の種類</th> <th>規格</th> <th>処理時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>シルハ-ポリエチレンフィルム</td> <td>厚さ0.1mm、幅2m</td> <td>2年8/8~11/16</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>多孔質フィルム</td> <td>1.0~0.1ミクロンの有孔フィルム 幅2m(エーザイ生科研製)</td> <td>"</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>無処理</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 処理方法 畝幅2.5mをマルチ処理。畝の上側はフィルムの端を20cm埋設樹の幹には同フィルムを巻き付け水の進入を防いだ。</p> <p>2 フィルムマルチの処理時期</p> <p>(1) 供試品種 山川早生 高接ぎ樹10年生 1区 1樹 3反復</p> <p>(2) 処理区</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区</th> <th>資材の種類</th> <th>規格</th> <th>処理時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A</td> <td>シルハ-ポリエチレンフィルム</td> <td>厚さ0.1mm</td> <td>1年7/10~10/20</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>"</td> <td>幅2m</td> <td>8/16~10/20</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>無処理</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 処理方法 上記試験1に準ずる。</p>				区	資材の種類	規格	処理時期	A	シルハ-ポリエチレンフィルム	厚さ0.1mm、幅2m	2年8/8~11/16	B	多孔質フィルム	1.0~0.1ミクロンの有孔フィルム 幅2m(エーザイ生科研製)	"	C	無処理	-	-	区	資材の種類	規格	処理時期	A	シルハ-ポリエチレンフィルム	厚さ0.1mm	1年7/10~10/20	B	"	幅2m	8/16~10/20	C	無処理	-	-
区	資材の種類	規格	処理時期																																
A	シルハ-ポリエチレンフィルム	厚さ0.1mm、幅2m	2年8/8~11/16																																
B	多孔質フィルム	1.0~0.1ミクロンの有孔フィルム 幅2m(エーザイ生科研製)	"																																
C	無処理	-	-																																
区	資材の種類	規格	処理時期																																
A	シルハ-ポリエチレンフィルム	厚さ0.1mm	1年7/10~10/20																																
B	"	幅2m	8/16~10/20																																
C	無処理	-	-																																
<p>III 主要成果の概要</p> <p>早生温州は8月以降の土壌水分を透湿性の高い多孔質フィルムで制御すると、果実の糖度を高めることができる。</p> <p>1 多孔質フィルムはポリフィルムと比較して、被覆後の土壌の乾燥が早く、被覆1か月で糖度は急速に上昇し、収穫時の糖度も高い。</p> <p>2 ポリエチレンフィルムをマルチ処理する場合、7月から被覆すると8月以降の土壌水分を制御でき、果実の糖度を高めることができる。</p> <p>3 マルチ処理による土壌の乾燥程度は、花こう岩の砂壤土では含水比15%以下が目安となる。</p>																																			

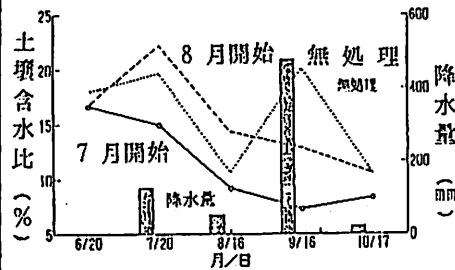
IV 主要成果の具体的データ



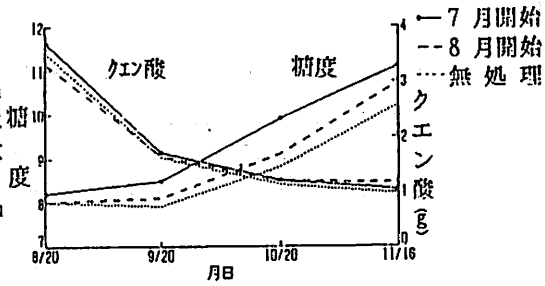
第1図 フィルムマルチ資材別土壌含水比の推移(2年)



第2図 フィルムマルチ資材別果実品質の推移(2年)



第3図 フィルムマルチ処理時期別土壌含水比の推移(1年)



第4図 フィルムマルチ処理時期別果実品質の推移(1年)

V 成果の評価と取扱上の留意点

- 1 温州ミカンの高品質果実生産のためのフィルムマルチ技術として利活用でき、『福岡県うんしゅうみかんマルチ栽培暦』に記載する。
- 2 被覆開始は圃場の排水性、土壌水分の状態に応じて決定し、土壌含水比が高い場合は多孔質フィルムの使用やマルチの開閉により土壌の乾燥を促進する必要がある。しかし、地下水が高い圃や排水不良圃並びに根群が深い圃ではフィルムマルチ処理効果は低い。
- 3 マルチ処理後に過乾燥となると、果実肥大が制限されたり落葉をきたすので、樹体の状態に応じて灌水を行う。

VI 今後の研究上の問題点

- 1 樹勢維持対策並びに隔年結果の防止対策
- 2 フィルムマルチ処理効果を高めるための根域の制限方法

VII 資料名

1～2年度福岡県農業総合試験場果樹関係試験成績書